

2023 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業）

「医薬品・医療機器等の費用対効果評価における
公的分析と公的意思決定方法に関する研究」

分担研究報告書

慶應義塾大学医療経済評価人材育成プログラムにおける人材育成

後藤 励

慶應義塾大学 大学院経営管理研究科/大学院健康マネジメント研究科

1. はじめに

費用対効果評価の政策利用が始まり、医療経済評価を行う人材に対するニーズが高まっている。一方、医療経済評価は生物統計学や疫学等を基に治療アウトカムを定量的に分析する方法、心理学等を基に QOL を評価する方法、経済学等を基に費用や効率性を評価する方法についての理解が必要となる。また、実際の政策的な評価では、政策当局や医薬品・医療機器製造販売業者、臨床専門家との幅広いコミュニケーションも必要となる。こうした多彩な能力や経験を持った専門家はまだ少なく、費用対効果評価を進めるために必要な人材が常に不足しているというのが現状である。

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究では、2019 年度より国立保健医療科学院より「医薬品及び医療機器等の費用対効果評価のための人材育成プログラム開発事業」を受託して、「医療経済評価人材育成プログラム」を開始した。人材育成プログラムが本格的に開始され 5 年間の経過し、事業は 2023 年度をもって修了した。

本稿では、修了者の属性、修了後の進路、費用対効果評価公的分析への参加などのプログラムの結果について報告する。

2. 医療経済評価人材育成プログラムについて

本プログラムでは、医薬品・医療機器等の費用対効果評価を行う人材を育成することを目的の一つとしているが、より幅広い人材に医療経済評価に興味を持ち学習と研究を行ってもらうために、ミッションとして「持続可能な保健・医療制度を支えるために、費用対効果評価を中心とした医療経済分析を、様々な視点を持って行うことができる人材を育成する」ことを掲げている。

本プログラムでは健康マネジメント研究科で行われる医療経済評価に関する授業を医療経済評価コース（HTA コース）と呼び、所定の単位を履修したものに対してサーティブ

ィケート（修了証）を授与している。HTA コース修了に必要な科目（括弧内は単位数）は以下の通りである。

- 基礎疫学（2）
- 基礎生物統計学Ⅰ（2）
- 基礎生物統計学Ⅱ（2）
- 応用生物統計学（2）
- 医薬経済学（2）
- 医療制度とレギュラトリーサイエンス（2）
- 医療経済学Ⅱ（2）*
- ヘルスエコノミクス（2）*
- QOL と費用の評価（2）
- 医療経済評価特論（1）
- 費用対効果評価演習（2）
- 経済評価モデル分析演習（1）

*医療経済学Ⅱとヘルスエコノミクスの2科目は、いずれか1科目を選択必修とする。

HTA コース科目は、健康マネジメント研究科以外の慶應義塾大学の大学院学生の履修が可能である。さらに、学位課程に入学しない場合でも慶應義塾特別学生（科目等履修生）として履修することが可能である。上記11科目20単位の取得をもって、HTA コース修了証が授与される。プログラム発足後、学生の受講の利便性を考慮した科目増設（ヘルスエコノミクスの開講）、医療経済評価モデル分析の演習授業の拡充（応用経済評価モデル分析演習の開講）などのコースの充実を行っている。

教育面の人材育成に加えて研究面の人材育成も行った。慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）に医療経済・医療技術評価研究センターを2019年10月1日に設置し、有給の研究員として学生やポスドクが研究プロジェクトに対して参加することが出来るように整備している。さらに、2020年5月より慶應義塾大学医学部において医薬品・医療機器等の費用対効果評価にかかる公的分析班の業務を担うこととなった。HTA コース履修生、修了生等は、研究員や教員として実際の公的分析に参画する機会もある。

このように、教育（HTA コース）と研究（KGRI）、実務（公的分析班）が一体となり、学生は費用対効果評価研究プロジェクトのメンバーとして参加することで、費用対効果評価の専門家となる意義を学び、研究プロジェクトへの参加により得られた経験がキャリア形成の一助となることが想定される。

3. プログラムの結果

受講開始時のアンケートで受講者の医療資格について調査しており、表1では、修了者の推移と医療資格別の人数を示している。2020年度より修了生が毎年20名前後出ており、トータル81名であった。科目等履修生はうち9名であった。医療資格では、医師、薬剤師、看護師とも12～15名となっており、幅広い医療者の参加が見られた。医療資格をもたない修了者は32名であり、医療経済評価の学修に対するニーズの広さがうかがえた。

表1：修了者の推移と医療資格別内訳

修了年度	2020	2021	2022	2023	合計
修了証授与者数	18	22	23	18	81
うち科目等履修生	(0)	(4)	(4)	(1)	(9)
医療資格別内訳（重複回答あり）					
医師	1	8	3	2	14
歯科医師	0	1	0	0	1
薬剤師	1	2	6	3	12
看護師	7	4	2	2	15
保健師	6	4	2	1	13
助産師	0	1	0	0	1
なし	7	4	10	11	32
不明	0	4	2	0	6

次に、表2ではコース修了後の進路を示している。修了後の進路は、2割弱の18名が博士課程への進学であった。半数以上の50名は、就職あるいは勤務継続であった。勤務先種別では、企業が22名と最も多く、医療・福祉機関13名が続いていた。

表2：修了者の進路

修了年度	2020	2021	2022	2023*	合計
修了後の進路					
進学	4	7	6	1	18
就職/継続勤務（起業含む）	12	13	13	12	50
求職及び未定	2	2	4	5	13
就職・勤務先種別					
企業	5	3	10	4	22

医療・福祉機関	3	6	1	3	13
官公庁	1	0	0	2	3
大学研究機関	1	0	1	1	3
起業・個人事業	2	1	0	0	3
不明	0	3	1	2	6

表 3 では、コース受講後に公的分析業務へ参加した人数を示している。慶應義塾大学では、2020 年度より費用対効果評価の公的分析班に参加している。医学部衛生学・公衆衛生学教室のもとに公的分析研究室を組織し、公的分析委託事業で雇用した特任教員・研究員が中心となって業務を行っている。本学では、医療経済評価にかかる人材育成も行っているため、修士号を取得したものについては公的分析業務に参加を募っている。その結果、HTA コース受講あるいは修了した延べ 12 名がこれまでに公的分析業務へ参加した。

表 3：コース受講後の公的分析への参加

公的分析への参加年度	採用時の受講・修了状況と人数
2020 年度	修了見込み(その後修了)：1 名
2021 年度	修了：1 名 受講中(その後修了)：4 名 受講中：1 名
2022 年度	修了：2 名 修了見込み(その後修了)：3 名
2023 年度	0 名
2024 年度	修了：2 名

4. 考察

本稿では、2019 年度より国立保健医療科学院の「医薬品及び医療機器等の費用対効果評価のための人材育成プログラム開発事業」を受託して発足した、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の医療経済評価人材育成プログラムの 5 年間の結果報告を行った。

修士課程レベルの HTA コースでの人材育成により 80 名を超える人材が医療経済評価に関する講義、実習により基礎的な分析能力を取得した。さらに、うち 12 名が、公的分析にも参加し、医療経済評価の実務を担っている。

さらに進んで公的分析の主担当を行うには、課題を見つけてみずから解決し、それを正確な文書にする能力が求められる。このような能力は、研究テーマを決めて論文を書く、という学位を取得するプロセスととても似ているため、博士課程の学生の研究をサポートすることも重要であるが、HTA コース修了者のうち 18 名が博士課程に進学し研究を続け

ている。

公的分析の品目数も徐々に増加しており、公的分析に学術面から関与する人材ニーズも増加している。修士レベル、博士レベルの人材育成が今後も続けられることで、医療資源の効率利用に寄与できる人材が輩出されることが期待される。

研究発表

なし

知的財産権の出願・登録状況

なし

